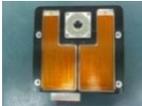

 細胞培養装置追加実験エリア
制御装置

 JAXAパーシング
カメラシステム

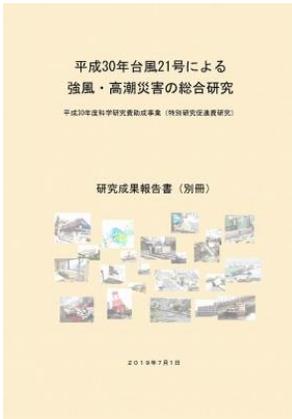
H-II Bロケット8号機／「こうのとり」8号機 打ち上げ成功

9月25日午前1時5分、種子島宇宙センターにおいて、宇宙ステーション補給機「こうのとり」8号機(HTV8)を搭載したH-II Bロケット8号機が打ち上げられました。

このH-II Bロケットには、明星電気が開発を担当した画像圧縮伝送装置(PCE-SS)およびロケット搭載カメラ4台、照明装置が搭載されました。HTV8にも、開発を担当したJAXAパーシングカメラシステム(JBCS)と細胞培養装置追加実験エリア(CBEF-L)制御装置が搭載されています。JBCSは、ロボットアームを操作して曝露パレットを非与圧部に戻す際の位置決め作業を支援するためのカメラで、曝露パレットの前方に装備しています。CBEF-L制御装置は、宇宙環境で生命化学系実験を行うためのCBEF-Lの制御と、CBEF-Lと「きぼう」システム間の通信を制御します。また、ロケット打ち上げ時のラジオゾンデによる種子島上空の気象観測も当社が担当しました。

明星電気は培った技術とノウハウを活かし、宇宙開発の発展に貢献していきます。

(担当: 宇宙防衛事業部)



公開された研究成果報告書

「平成30年台風21号による強風・高潮災害の総合研究」に貢献

平成30年9月4日に四国・近畿地方に上陸した台風21号は、日本列島に甚大な被害をもたらしました。その気象学的な分析や災害発生メカニズムの解明などのために、平成30年度科学研究費助成事業(特別研究促進費研究)「平成30年台風21号による強風・高潮災害の総合研究」が文部科学省により採択され、その成果を京都大学が報告書にまとめました。

当社は主に強風災害メカニズムの解明を担当し、超高密度気象観測網(POTEKA)の風向・風速／気圧などの観測データの時系列変化を分析することで、災害発生時の気象条件を明らかにすることに貢献しました。また、台風進行前面の局地的な気象変化をPOTEKAが捉えていたことも報告し、気象学分析の研究者から高密度気象観測の価値が高く評価されました。

明星電気はこれからもPOTEKAを活用し、気象学や防災学の発展に貢献していきます。

関連URL : <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/244148>

(担当: 気象防災事業部)



月刊「地理」9月号表紙

月刊「地理」9月号でPOTEKA NETが紹介されました

地理学者も購読している古今書院発行の月刊「地理」9月号で、当社のPOTEKA NETが紹介されました。

駒澤大学・神奈川大学の講師である気象予報士の平井史生先生が執筆した「授業で活かせ！ ネット地図」の中で、身近な気象を地図上でリアルタイムに見ることができる一例として、POTEKAが設置されている茨城県守谷市付近のPOTEKA NET画面が掲載されました。記事の中では、POTEKA NETのデータが学校の理科の授業で使えることなど、教育現場での利用も期待されています。

防災用途で導入されることの多いPOTEKAですが、今後もさまざまな用途での利用を皆さまに提案していきます。

(担当: 気象防災事業部)

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。